

総合型選抜・学校推薦型選抜入試対策講演会あいさつ

令和7年7月20日(日)

皆さん、こんにちは。山梨予備校校長の斉木です。よろしくお願いいたしますします。皆様方には、日頃より山梨予備校における学習指導に対しまして、ご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。また、本日は、たいへん暑いなか、またお忙しいところをご参加いただき、ありがとうございます。

大学入試は、全入時代を迎えつつある、と言われます。しかしこれはあくまで全体としての話で、あこがれの大学を目指す受験生一人一人にとりましては、変わらず狭き門です。選抜方式が多様化し、自分はどの方式で挑戦すべきか迷い、全力で立ち向かう覚悟をとりにくいのでは、とも感じます。

本日のテーマ：総合型・学校推薦型選抜入試においては、志願理由書や自己推薦書の提出が求められます。その一方で、従来型の教科科目の入試に備える必要もあります。私は、選抜方式は多様であっても、全ての入試で共通して測られているものがあると考えます。それは「学ぶ意欲」です。

大学入試では、「大学での学びに必要な意欲」が測られます。志願理由書は自分を見つめながら考えをまとめますが、その自分が「学ぶ意欲」に満ち満ちていなければ、たとえ言葉を飾っても訴える力を持ちません。一般入試でも、受験生の「学ぶ意欲」が成績に表れる、とみることができます。

私は毎月一回、各HRを訪問し、応援メッセージと題して3分間ほど話をしています。先月は「受験のために受験勉強がある」ではなく、「受験勉強のために受験がある」と話しました。受験を目指してする受験勉強ですが、そこで培われた「学ぶ意欲」は、生涯を通じて自分を支えてくれるからです。

「学ぶ意欲」とは生きる力、生きる姿です。これは勉強するという具体的な姿勢を通じて初めて培われると思います。そこで綿密な計画を立て、その計画に従って頑張ろうとするのですが、この計画というのが曲者で、多くの場合、計画通りに実行できない自分に不安と苛立ちを抱いてしまいます。

計画通りに進まなくても現実に勉強した分の成果は残ります。日々の確かな努力があったはずなのに、時間だけがいたずらに過ぎているような、そんな錯覚に陥りがちです。「夏を制する者は受験を制す。」と言われると、夏を制することができなかつたらどうしよう、と先回りして心配するのです。

私たちの未来は、決して一遍には来ません。時間をかけてやってきます。今の私たちには、一日一日、その時その時の自分があるだけです。今の自分の時間の積み重ねが、やがて未来になっているのです。前もって意識しすぎる未来は、かえって今を生きる意欲の妨げになるのでは…、と思います。

新しいことを知る、新しいことができる、これは本来うれしい経験です。未来を案じたり、過去を悔やんだりせず、今、目の前のことだけに集中して取り組み、机の上の世界に身を任せる…、それが何であれ目標に近づくための最も確実な道です。たとえ遅々とした歩みでも、その歩みを信じるのです。

机に向かい、問題を一つ解く、構えずさらっと取り組む…、いつの間にか集中している自分にあとで振り返って驚いてください。気分が乗っても乗らなくても、まず机につくことです。そして、「ふむふむ」とか「ああ、そういうことなのか」などつつぶやきましょう。勉強する流れにきっと乗れるはずです。

かけがえのない今を懸命に生きる皆さん…、皆さんの前途に幸多かれとお祈り申し上げ、挨拶いたします。このあと講演になりますが、第Ⅰ部 河合塾の大坂先生、第Ⅱ部 山梨大学の吉田先生、山梨県立大学の渡邊先生、第Ⅲ部 山梨予備校の湯浅先生、どうぞよろしくお願いいたします。

以上で、挨拶を終わります。ご清聴いただき、ありがとうございました。